

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年12月11日

【2017年12月2日～2017年12月8日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは対米ドルで下落し、対円ではほぼ横ばいとなりました。また、2年国債金利は低下しました。

年金改革法案を巡る政治情勢につきましては、同法案への賛成票獲得が難航した結果、6日（現地、以下同様）に予定されていた下院での採決は見送られました。同法案の年内採決の可能性が低下したことは、ブラジル・レアルの下落要因となりました。

ブラジル中央銀行は6日の金融政策委員会におきまして、政策金利を市場予想通り0.50%ポイント引き下げ、7.00%とすることを決定しました。声明文において、次回以降も利下げ幅を縮小しながら利下げを継続する方針が示唆されたことは、長短金利の低下要因となりました。

8日に発表された11月のIPCAインフレ率は、前年比2%台後半で安定的に推移しており、金融政策に大きな影響を与えるものではなかったことから、特に材料視はされませんでした。

【2】今週の見通し

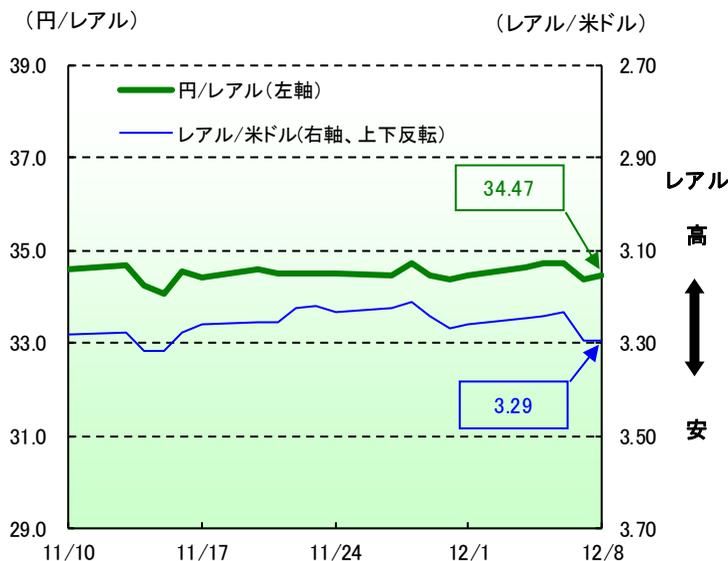
今週も年金改革法案の行方がブラジル金融市場に大きな影響を与えるものと想定しています。

先週の採決は延期されましたが、テメル大統領は依然として年内の下院採決をあきらめておらず、18日頃の採決を目指す方針です。政府が現在確保している賛成票については、報道によって見方が異なりますが、大統領自身は法案可決に必要な308票のうち280票程度を確保したと考えている模様です。政府は同法案に賛成票を投じる議員に様々な優遇措置を講じることを検討するなど、さらなる賛成票の上積みを目指して、今週も積極的な議会工作が展開されるとみられます。なお、現時点で市場は年内の下院採決の可能性をあまり織り込んでいないため、仮に採決が2018年2月以降に持ち越された場合でも、為替・債券の下落余地は限定的と考えています。

経済指標等につきましては、6日に行われた金融政策委員会の議事録の公表や小売売上高の発表が予定されています。

【ブラジル・レアル 為替推移】

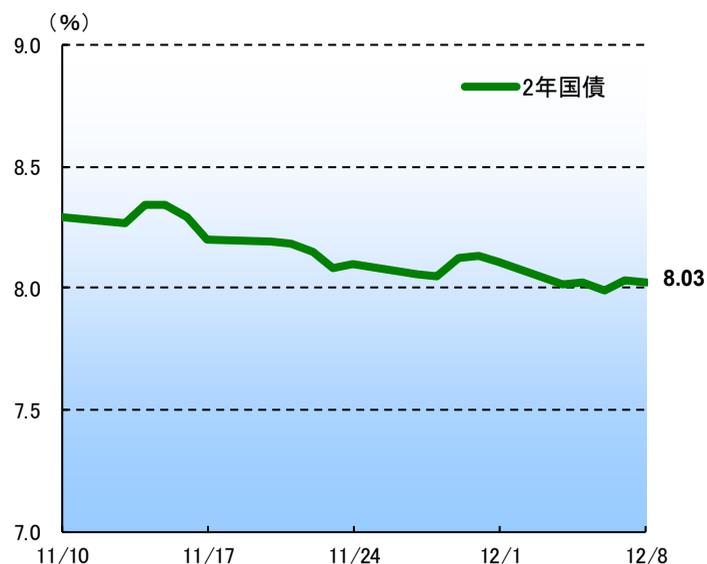
(2017年11月10日～2017年12月8日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2017年11月10日～2017年12月8日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>